



実は髷を結ってました!

島の西郷さん その1 徳之島に流される

いわゆる黒船来航による欧米列強の圧力により、幕府は開国に踏み切ったものの世は乱れ、攘夷、王政復古、公武合体、倒幕などさまざまな政治的、軍事的な動きが高まっていた江戸時代末期。下級武士であった西郷さんは、薩摩藩11代藩主・島津斉彬に大抜擢され、ゆくゆく政治の表舞台へ出ていくこととなりますが、斉彬は急死。その後、実権を握った島津久光(12代藩主・島津忠義の父)とは考えが合わず、さらに久光の命令に背いて行動したため激怒させてしまい、1862年(文久2年)の夏、徳之島へ流刑となってしまう。明治の世となる1868年(慶応4年)の秋まで、あと6年と3ヶ月に迫っていました。

現在の山川港

山川湊を、1862年7月7日に出帆
しかし、潮懸りのため同湊にある番所に係留
あらためて7月10日に出帆

- ※湊(港)の名称は、天保国絵図を参考にしています。
- ※新暦で記載しています。
(1862年7月7日は、文久2年6月11日)
- ※「番所」とは、おそらく港の南にあった津口番所を示し湊(港)への船の出入りを見張る所。
- ※「潮懸り」とは、帆走するための、潮の流れる方向や風向きが逆向きときに、停泊して待つこと。

帆走およそ4~5日

現在の一湊漁港

一湊村で、7月14日~21日の間、潮懸り
7月22日ごろ出帆

帆走およそ3~4日

現在の西古見漁港

西之古見湊に、7月25日か26日ごろ入港
3、4日滞在し、7月29日ごろ出帆

帆走およそ1~2日

現在の湾屋

和にや泊(湾に屋湊)に、7月31日ごろ上陸
とりあえず百姓の直道宅に身を寄せる



西郷隆盛(当時は大島吉之助)の上陸記念碑



湾屋川史跡公園の遊具がリニューアル!



やわらかい人工芝

ミストボールから水しぶき!

チンアナゴのジャングルジム

島流しにされたおよその原因

公武合体(朝廷と幕府の関係改善と強化)を望む島津久光が、薩摩藩の軍勢を率いて京都御所へ出向く際に、西郷さんは先行して下関(現在の山口県下関市)で待つはずでした。しかし、下関に着くと平野国臣(元福岡藩士、攘夷志士)から、過激な志士らが京都御所の焼き討ちを企てるなどの緊迫した情勢を耳にし、命令に背いて急ぎ大坂(現在の大阪)へ行き、その動きを阻止しようと奔走するのです。島津久光は西郷さんの命令無視を知り、さらに大久保利通や堀次郎らが、過激な企てに西郷さん加担したかのような誤った報告をしたため、西郷さんに愚弄されたと感じ、島流しにしたのです。なお、平野国臣という人物が登場しますが、幕末の折々に攘夷と倒幕を広め、歴史の動静へ微妙に影響を与えた奇人らしく、下関では西郷さんの先走りを促したり、尊王攘夷派の僧侶、月照とともに入水自殺した際には救助するなど、妙に関わりの深い志士・浪人だったようです。

もっと情報が見られる
電子版はこちら



西郷さんが上陸した湾屋沖の海底には、チンアナゴの生息地があるそうです。